

調査研究終了報告書

研究分野：保健

調査研究名	レセプトデータを用いたがん・脳卒中・大腿骨頸部骨折における地域医療連携体制の実態把握
研究者名（所属） ※ 〇印：研究代表者	〇西 巧、吉田 まり子、市原 祥子、高尾 佳子、中島 淳一、新谷 俊二、櫻井 利彦、香月 進(保健環境研究所)、馬場園 明(九州大学大学院)
本庁関係部・課	保健医療介護部 保健医療介護総務課 がん感染症疾病対策課
調査研究期間	平成 28 年度 - 29 年度 (2年間)
調査研究種目	1. <input checked="" type="checkbox"/> 行政研究 <input type="checkbox"/> 課題研究 <input checked="" type="checkbox"/> 共同研究 (共同機関名：九州大学大学院) <input type="checkbox"/> 受託研究 (委託機関名： 2. <input checked="" type="checkbox"/> 基礎研究 <input type="checkbox"/> 応用研究 <input type="checkbox"/> 開発研究 3. <input type="checkbox"/> 重点研究 <input type="checkbox"/> 推奨研究 <input type="checkbox"/> I S O推進研究
福岡県総合計画	大項目：誰もが元気で健康に暮らせること 中項目：生涯を通して健康で過ごせる社会をつくる 小項目：県民の健康の保持増進
福岡県環境総合ビジョン(第三次福岡県環境総合基本計画)※環境関係のみ	柱： テーマ：
キーワード	① 地域医療連携 ②レセプトデータ ③がん ④脳卒中 ⑤大腿骨頸部骨折
研究の概要	
1) 調査研究の目的及び必要性 2014年度の第6次医療法改正により都道府県医療計画の策定プロセスが大きく見直され、病床機能報告制度の導入による病床機能の明確化、機能分化、連携体制の構築及びネットワーク化の促進が図られることとなった。地域医療計画や地域医療構想においてもレセプトデータ等の活用は重要性が増している。地域医療連携体制構築は政策的に特に重要な課題であるが、レセプトデータ等を活用した医療連携体制の評価はこれまで行われていない。そこで、診療報酬点数表において評価されている疾患であるがん・脳卒中・大腿骨頸部骨折入院患者を対象とし、レセプトデータを用いて地域医療連携体制を評価することで、切れ目のない医療連携体制の構築に貢献することを目的とした。	
2) 調査研究の概要 がん・脳卒中・大腿骨頸部骨折における地域医療連携が医療資源の効率的利用に貢献しているかどうかを評価するために、福岡県後期高齢者医療広域連合の医科・DPC レセプトデータを用いて、地域連携診療計画策定の有無によるケアプロセス全体にわたる医療費・診療日数への影響を明らかにした。	
3) 調査研究の達成度及び得られた成果(できるだけ数値化してください。) 平成28年度は脳卒中・大腿骨頸部骨折を対象疾患とし、地域連携診療計画を伴い、他病院へ転院している群を連携群、同一病院内の回復期病棟へ転棟している者を転棟群、残りをその他の群に分類し、医療連携体制と医療資源利用についての解析を行った。平成29年度は、後期高齢者医療制度の医療・介護レセプトデータベース構築と大腿骨頸部骨折術後の後期高齢者における医療・介護費推計と増加要因を明らかにした。	
4) 県民の健康の保持又は環境の保全への貢献 急性期から在宅医療・介護までの連続したケアについて最適化を検討し、円滑な地域医療連携が行われることにより、医療・介護資源の効率的な使用が可能になる。また、医療や介護が必要な状態となっても、できる限り住み慣れた地域で安心して生活を継続し、その地域で人生の最期を迎えることができる環境を構築することにつながり、県民、特に高齢者の生活の質向上のためにも有用であると考えます。	
5) 調査研究結果の独創性、新規性 大規模なレセプトデータベースを用いて複数の医療機関にまたがる治療プロセス全体を評価した研究は少ない。脳梗塞を対象とした先行研究では急性期での医療資源利用の効率化は明らかにされているが、後方病院や全体の医療資源の効率化は示されていなかった。本研究の結果から以下のような結果が得られた。 (1)連携群、転棟群ともに急性期・周術期在院日数の有意な短縮が認められた。 (2)転棟群では回復期、全体の診療日数は有意に短く、医療費は有意に低かったが、連携群では関連していなかった。	
6) 成果の活用状況(技術移転・活用の可能性) CSVの医療・介護レセプトデータから、福岡県における後期高齢者医療・介護統合レセプトデータベースを構築できた。この技術とデータベースは、今後の研究やKDB等の分析にも活用できると考えられる。	